

特集Ⅰ NPOJCP 第1期インターン生研修記 田中良征（金沢美術工芸大学3年）
特集Ⅱ 福岡県久留米市 藍生庵復旧支援作業活動報告 松尾かをる（NPOJCP九州支部）
特集Ⅲ 令和5年度「文化財保存修復を目指す人のための実践コース～戦争と文化財～」制作スピノフ

特定非営利活動法人
文化財保存支援機構



NPO JCP NEWS

～final～

次回からは年間情報誌に変わります！

2023.12.10



写真(左上より) 藍生庵/竹野小学校卒業制作指導 NPOJCP 研修生田中さん 藍生庵/被災直後の機織り機 実践コース/打ち合わせ

第1回 NPOJCP インターンシップを終えて

／田中良征（金沢美術工芸大学 美術工芸学部美術科日本画専攻3年、NPOJCP 学生会員）

高校生の時、泉屋博古館「文化財よ永遠に」展で文化財修復の仕事に興味を持ってから、修復工房を見学させていただく機会が何度かありました。しかし、短時間の見学やテレビなどでの部分的な紹介では、なかなか修復の仕事の実際を知るには不足があると感じていました。今回、21日間、朝から夕方まで、JCPの古文書・絵図・人形・油彩画・日本画の5分野の修復工房、目黒黄鶴堂、伝世舎、川崎市市民ミュージアムでインターンシップをさせていただけたことは、他ではできない貴重な経験でした。



写真／和紙の紙取り作業

とくに川崎市市民ミュージアムは、「古鏡」展を鑑賞した中学生以来の訪問で、暗い空っぽの展示室を歩いて開館当時を思

い出し、胸が痛みました。浸水の跡も壁には生々しく残り、映像では伝わらない臭いや被災のスケールを体感したことは、なかでも強烈な記憶として残っています。ここでは、被災古文書の開披解体や写真資料のドライクリーニング・加湿作業などをしました。膨大な収蔵品のレスキューを、同時並行で効率良く分類整理し、引継ぎを繰り返しながら進めていくプロセスは、一点物の美術品修復とは大きく異なり、修復のさまざまなあり方を知るきっかけとなり、視野を広げることができました。

さまざまな専門の修復技術者の方と同じ時間を過ごし、一連の修復作業を見学または体験させていただく中で、先生方それぞれの判断基準や修復理念、作品の本質を見極める眼に触れることができました。作業中に何を考え、どのようなリスクや展開を予測しているのか。作品や素材・道具とどのような対話をしているのか。先生方は、とても丁寧に自らの分析・判断・根拠を理論的に教えてくださいました。膨大な知識と経験に基づき、理論的に分かりや

すく説明する力が現代の修復技術者には不可欠のだと知りました。私自身も、これから修復技術者をめざすにあたって、中途半端な知識で適当なことを言うてはいけないと改めて身が引き締まりました。

また、私がインターンで刺激的だったのは、たとえば有名作家の作品や江戸時代の絵図がガラス無しで工房に置かれているということです。修復技術者は、作品と最も近い場所で過ごし、実際に手にとって扱います。私自身も、インターンで作品や本紙を手にとらせていただける機会があり

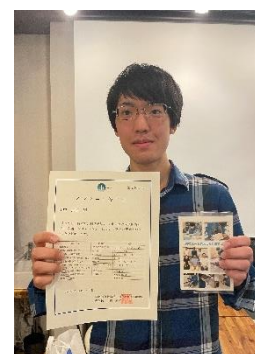


写真／作品への処置作業

ました。作品を取り扱う経験は、喜びとともに緊張感も常にありました。修復を志したつもりが、自身が作品の損傷原因となる「人災」のリスクが常に隣合わせであることを、肝に銘じておかなければならないと痛感しました。そうした貴重な作品や資料を預かる責任感。作品のみならず人への敬意。とにかく気を遣うということ、インターンの中で最もよく教えていただいたように思います。



写真／インターン報告会と
修了証書を持つ田中さん



最後に、このような学習機会を準備してくださいましたNPOJCP事務局の皆様、第1回インターン生として受け入れてくださった工房や博物館の皆様には厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

／松尾かをる（NPOJCP 九州支部）

福岡県久留米市田主丸町竹野に在る久留米絣工房「藍生庵」^{らんせいあん}。祖父で人間国宝であった松枝玉記氏（松枝家3代目当主）に師事した故哲哉氏（5代目）が、藍染めに適したよりよい水質を求め1990年に構えた、豊かな自然に囲まれた工房兼住居である。

2023年7月10日、線状降水帯からの豪雨により多くの久留米絣工房が被災し、文化財レスキューやボランティアによる復旧支援が行われた。研修等でお世話になっていた藍生庵には土石流が流れ込み、^{こうやば} 紺屋場、^{はた} 機織り場、居住部分を覆った。小夜子氏（6代目）は避難指示に従い大木町の玉記氏生家（崇弘氏（7代目）工房兼住居）に作業を持込んでおり、難を逃れた。

被災直後から親類・友人・知人や久留米市文化財保護課・重要無形文化財久留米絣技術保存会・九州国立博物館・九州歴史資料館・竹野小学校等大勢の支援者によるレスキュー、泥掻き・土砂の排出等が行われ、1か月半後には緊急を要する作業の山を越えた。しかし、本来の生業にとりかかるためにはほど遠い状況で、制作環境復旧のための細かな支援が望まれていた。そこで、九州支部は緊急支援の後を引き継ぎ、藍生庵にて久留米絣の制作が元通り行われるまでの日常的支援を行うこととした。

作業としては、作品に付着した泥落としや、被災した道具、漆器・陶磁器類の選別やクリーニング、

壁・天井の泥落とし、壁修繕に伴う準備、^{くど} 竈周辺の掃除、床板のささくれ修理（紙やすり掛け）、木製家具（素木、一枚板）の高圧洗浄・サンダー・紙やすり掛けを行った。特に一枚板の長椅子は、被災直後に藍生庵に渡る唯一の手段「橋」として大活躍したもので、現在は本来の役割を果たしている。最後に、大勢の復旧支援者へのお礼状発送準備をお手伝いし、改めて「支援」の大きさ大切さを感じた。

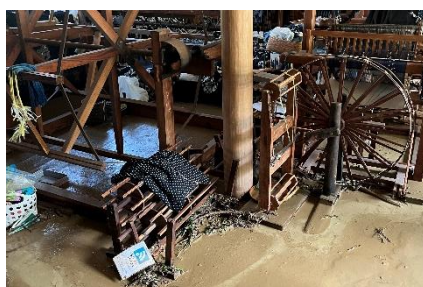
なお今回、支援作業と並行して見学対応や竹野小学校卒業制作指導等に関わる貴重な機会を得た。崇弘氏の母校である竹野小学校での卒業制作指導は、哲哉氏逝去後も続けられ今年で16年目を迎えた。卒業生自ら図案作成～^{えいと} 絵糸書き～^{くく} 括り～（染め）～^{ほど} 絣解き～^{くだまき}（管巻）～織りまで行う本格的なものだ。特に^{えだい} 絵台を用いた「絵糸書き」は藍生庵の150年受け継がれた絵絣の伝統技法であり、久留米絣の工程を理解する上で大変重要。この竹野小卒業制作の染めが藍生庵被災後初の「藍染め」となり感慨深く、復旧途上の厳しい状況の中、前向きに見学や指導、後進の育成、復旧に尽力される松枝様母子に、藍と久留米絣への深い愛情を感じた。

復旧までもう少し。自然豊かな藍生庵から、また美しい新たな作品を生み出してくれるのを心待ちにしている。

※この支援活動費は、皆様から寄せられたJCP 災害寄付金から一部拠出しています。



紺屋場 被災直後（藍生庵提供）



機織り場 被災直後（藍生庵提供）



橋 被災直後（藍生庵提供）



大勢の支援者による復旧作業（藍生庵提供）



被災した道具(糸車)のクリーニング



竹野小学校卒業制作指導（染め）

事務局裏話～「戦争と文化財」企画顛末

／本茉莉絵（NPOJCP 事務局 修復部門長）

なんだか今年度は重そうなテーマだな…ナイブで取り扱いが難しそうだ…と企画がスタートした段階で既に物憂げな気持ちでいっぱいでした。そう思うのはなぜかと掘り下げると、人間の残虐性や過去の過ちを突きつけられ、どこか他人事としておきたかった自分に強く揺さぶりをかけるようなテーマだったからです。そうは言っても緩やかに船は動き出し、事務局内で協議を重ねに重ねる中で、最も時間をかけたことはオンライン配信の中での構成と講師選択といっても過言ではありません。まず俎上にあがったのは「戦争」はどこまで遡るか、でした。応仁の乱？元寇？第二次世界大戦は外せないよね、直近だとロシアとウクライナの戦争？でも情報の確か性をどう判断する？など戦争の時代をどう区切るのか。ここは頭を悩ませましたポイントでした。次に上がったのは、講義内容に不動産文化財が多くなり偏りが出てしまうことでした。修復技術を持った会員は動産を対象としている方がほとんどで、不動産ばかりではあまり関心を持ってもらえないかも、といった意見も出ました。そして政策的な話しばかりにならないようにする、など戦争の切り口を様々な角度から切り開いては構成の組直しを繰り返しました。もちろん様々な人から助言をいただき、今年度のセミナープログラムがようやく完成しました。奇しくもセミナー中にハマス・イスラエル戦争が勃発してしまい、日々胸の痛むニュースを見聞きするとは思いませんでした。戦争も文化財も人が生み出すものです。1日もはやい収束を願わずにはいられません。



写真／打ち合わせ風景

セミナー現場取材裏話

／後閑亜有実（NPOJCP 事務局 総務担当）

今回の実践コースでは、3つの博物館を取材させていただきました。東京大空襲・戦災資料センターでは戦争による被害の記録を、明治大学平和教育登戸研究所資料館では戦争に関する加害の記録を、そして立命館大学国際平和ミュージアムでは未来の平和へ向けての問いかけを学ぶことで、多角的にアプローチすることができたのではないかと思います。

取材を快く引き受けてくださった講師の先生方は、皆それはもうたくさんのことを惜しみなく教えてくださって、泣く泣くカットしたお話も少なくありません。ありがたいと噛み締めつつも、自分の浅学さを反省する場面も多々ありました。そうですね、という顔をしてお話を伺いながら、（こんなことも知らなかった！）と内心ぎょっとすることもしばしば……しかし、先生方がたくさん言葉を尽くしてお話してくださったのは、すべてお見通しだったからなのでしょう。

「歴史はなかなか実感がわかなくて興味が持てない」という話をよく耳にします。ある意味では仕方のないことだとも思います。しかし、過去はフィクションではありません。戦火を逃れ、破棄命令の運命もすり抜けて、なんとかここまで現存しているものたちがそこにあり、過去の事実を訴えています。こうしたものたちを永く伝え残さねばならないと強く思うとともに、それらが訴えている声なき声を正しく聞き取る力もまた、同時に育まねばならないのだらうと感じました。



写真／取材三種の神器

書籍紹介

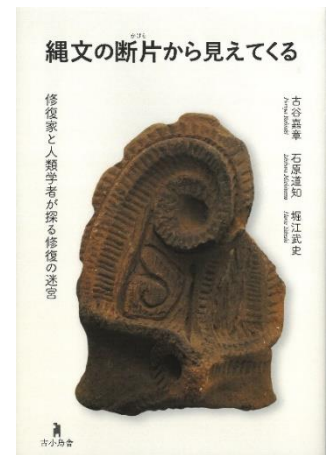
『縄文の断片から見えてくる～修復家と人類学者が探る修復の迷宮』

著者：古谷嘉章／石原道知／堀江武史

発行所：古小烏舎

2023年8月30日 第1刷発行

定価：本体 2,000 円 + 税



著者のひとり土器修復家の石原道知氏は、JCP 発足当初からの会員で JCP セミナーの講師としてもたびたび登場頂いている。セミナーの中で土器の欠損部の復元——修復による介入について、たびたび問題提起を行ってきた。本書では一般の人になじみの少ない「土器修復」の外縁を紹介すると同時に、旧来の復元方法の問題点、自身悩みつつ向き合ってきた修復事例について述べている。もうひとりの土器修復家堀江氏は、その思想において石原氏との共振性が高い修復家であり、ふたりは盟友とも言える間柄である。

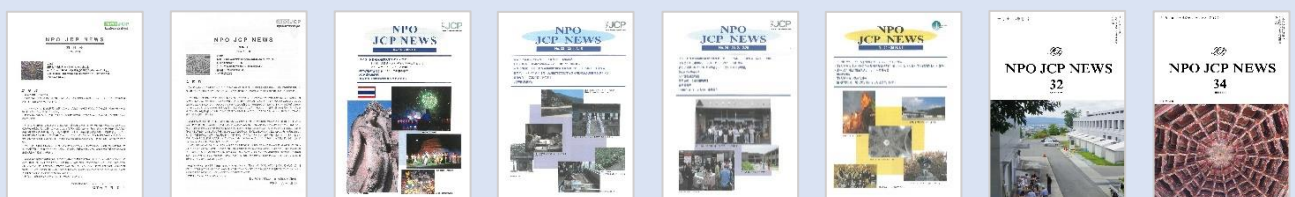
優れた修復家はモノの声を聴く稀有な才能を持っている。かつて石原氏の工房を訪ねた際、「傍らに置いて共に時間を過ごしていると、モノが語り掛けてくる」と話していたことが印象深い。堀江氏の言う「あらわれるものを待つ」というのも同じ感性であろう。縄文土器の装飾が左右対称であるなどの思い込みは現代人の早合点であり、感性を研ぎ澄まして向き合えば、当時の作り手の造形思考が我々とは異なることが見えてくる。「わからなさ」が「わかってくる」。

古谷氏は文化人類学的立場から、この二人の仕事に高い関心と敬意を払う。「修復」という行為は、実は社会学や哲学など、多様な学問領域との共通命題を孕んでいる。今後も三者のコラボレーションで、新しい地平を見せてくれることを期待している。(M.Y)

NPOJCP NEWS LETTER は年間情報誌へバージョンアップします！

JCP 発足当初から親しまれてきた「NPOJCPNEWS」ですが、NEWS と言いながら近年は年に1度しか刊行できず、心苦しく思っていました。とは言え昨今はスタッフも増えてまいりましたので、内容的には充実したものをお届けできているのではないかと思います。編集会議でも掲載したいコンテンツ案が次々飛び出し、最長 16 ページの現行形態では収録しきれなくなってきました。

そこで、このたび新たに装いを改め、もっとたくさんの情報を満載した年間情報誌にバージョンアップすることといたしました。形態は変形 A4 判 80 頁程度。内容としては修復界の紹介、自宅でできる文化財の取り扱い、修復材料店の紹介、はたまたエッセイや連載記事・寄稿など、写真も豊富にして一般の方々にも楽しめる誌面作りを考えています。非会員への有償頒布も企画していますので、広告でご協力頂ける企業・個人の方は是非掲載をご検討ください。これからも、J C P の情報誌をよろしくお願いいたします。



これまでのニュースレター表紙 ※バックナンバーは HP よりご覧いただけます。

ご入会ありがとうございました。

(令和5年12月10日現在入会者数)

■理事	9名
■維持会員	16名(理事・監事含む)
■登録会員	156名
■一般会員	103名
■学生会員	32名
■監事	1名
■評議員	1名
■賛助会員	19件
株式会社	宇佐美修徳堂
株式会社	岡墨光堂
京都芸術大学	日本庭園・歴史遺産研究センター
株式会社	光影堂
一般社団法人	国宝修理装こう師連盟
コネクト株式会社	
修理工房	宰匠株式会社
株式会社	坂田墨珠堂
株式会社	修護
株式会社	修美
株式会社	松鶴堂
株式会社	東都文化財保存研究所
株式会社	トリアド工房
長谷川和紙工房	
株式会社	半田九清堂
株式会社	文化財保存
山領絵画修復工房	
(一財)三谷文化芸術保護情報発信事業財団	
株式会社	リボテック
(アイウエオ順)	

編集後記

八木) 2001年のJCP設立当初から続けてきたニュースレター、はじめは手探りで、手作り感満載。会員の編集デザイナー 嶋根隆一さんをはじめとして、取材に協力して下さい下さった方々、本当にありがとうございました。今後はバージョンアップ、パワーアップして、より一層皆様楽しんでもらえるような誌面づくりに努力してまいります。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

本) 慣れとは厄介なもので、気づかぬうちに己を浸食しているものです。扱いがぞんざいになってしまったり、余裕という名の甘えが出たり。一つ一つに真剣に取り組むインターン生の姿は、ヨレはじめた私の襟にアイロンをかけてくれました。秋のお茶会ラッシュでも新人さんのごこちない姿と真剣な眼差しに、居住まいを正し、学びを得て。来年は成長や躍進を表す甲辰。ニュースレターも気持ち新たにバージョンアップ!!

NPO JCPの活動に 参加してみませんか?

- 登録会員：年会費 7,000円
文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。
登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。
- 一般会員：年会費 5,000円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。
- 学生会員：年会費 3,000円
大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。

会員特典：情報誌、報告書の送付

講演会／研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、ファックス、電話、メールにて申込用紙をご請求ください。折り返し資料をお送りいたします。

また、ホームページからでも入会申込ができます。

TEL：03-3821-3264 FAX：03-3821-3265

E-Mail：jimukyoku@jcpnp.org

URL：www.jcpnp.org

※JCPでは随時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

・郵便振替 00120-4-10545

NPOJCP

・三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店

普通預金 3960340

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

理事 三輪嘉六

・みずほ銀行 根津支店

普通預金 1727893

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS ~final~

2023年12月10日発行



特定非営利活動法人文化財保存支援機構

〒110-0008

台東区池之端 4-14-8 ビューハイツ池之端 102号

TEL：03-3821-3264 FAX：03-3821-3265

E-mail：jimukyoku@jcpnp.org

URL：www.jcpnp.org

関西支部

京都芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター内

TEL：075-791-8519

九州支部

〒810-0022 福岡県福岡市中央区薬院 2-17-29

シティパーク薬院 505号